

光で世界は進化する。



平成 30 年 8 月 16 日

株式会社 QD レーザ

網膜走査型レーザーアイウェアの欧州臨床試験の開始について

主に角膜混濁による低視力を対象

株式会社 QD レーザ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：菅原充、以下、QD レーザ）は、角膜混濁に起因するロービジョンの方を対象に、網膜走査型レーザーアイウェア（LEW）を用いた治験を欧州（ドイツ）で開始したことをお知らせいたします。

QD レーザでは創業以来培ってきたレーザー及び光学技術を応用して、三原色レーザー光源からの微弱な光と高速振動する微小な鏡（MEMS ミラー）を組み合わせ、網膜上に映像を描き出すレーザー網膜走査技術「VISIRIUM®テクノロジー」を開発してきました。この方式は、原理上眼の屈折力やピント調節機能に影響されにくく、デジタル情報を網膜に直接届けられる特長を活かし、ロービジョンの方（全盲ではない視覚障害者）に向けた視力補正、視覚支援を目的とした製品開発を進めています。

前眼部疾患による低視力状態は、網膜が機能しているにも関わらず、そこに正しく結像できないために発生します。LEW は眼の結像機能を使わずに映像を網膜に届けるため、カメラで撮影した映像を投影することにより、前眼部疾患に対する視力補正の効果が期待できます。

前眼部疾患のうち、主に不正乱視による低視力状態については、6 月 23 日既報の通り、国内で臨床試験（治験）を実施しております。この度、欧州（ドイツ）においても治験を開始いたします。主に手術等による治療が困難な角膜混濁を対象とするもので、当局および倫理委員会の審査等をすべて完了し、エッセン大学病院（ノルトライン・ヴェストファーレン州）にて 8 月 15 日（現地時間）に最初の被験者が参加いたしました。今後 20 名程度の被験者を対象に評価を行う予定です。

*本治験に利用する機器は、現在受注している網膜走査型レーザーアイウェア RETISSA® Display とは異なり、カメラを内蔵したモデルです。カメラ内蔵モデルの発売時期は未定です。

*VISIRIUM および RETISSA は株式会社 QD レーザの登録商標です。

以上

本治験に関するお問い合わせはこちらまで

株式会社 QD レーザ 薬事推進室 RA@qdlaser.com